

甲状腺外科草子 147

古文復習：新古今の西行

杉野 圭三

名作「舟を編む」のなかで「西行」という項目の語釈が問題となった。「西行」には「不死身」、「遍歴する人」、「流れ者」、「タニシ」、「西行桜」、「西行被（かず）き」、「西行背負い」、「西行忌」などの関連が指摘された。

最終的に主人公の馬蹄がつけた語釈は、「平安末。鎌倉初期の歌人、僧。法名は円位、俗名は佐藤義清。北面の武士として鳥羽上皇に仕えるも、二三歳で出家。以後諸国を旅し、自然と心情を詠んで独自の歌風を築いた。新古今和歌集には九四首と最多歌数を採録。歌集に山家集など。河内の弘川寺で没」



西行（1118－1190）と関連書籍

新古今和歌集に取り上げられた西行の 94 首の中から独断で好みの歌を選んでみた。解釈不要な分かり易い歌が多い。

ながむとて花にもいたく馴れぬれば散る別れこそかなしかりけれ 126

ほととぎす深き峰より出でにけり外山の裾に声の落ち来る 218

よられつる野もせの草のかげろひて涼しく曇る夕立の空 263, 多くの影響を与えた夏歌の名作おしなべてものを思はぬ人にさへ心をつくる秋の初風 299

心なき身にもあはれは知られけり鳴立つ沢の秋の夕暮れ 362, 甲状腺外科草子 141 既出
朽ちもせぬその名ばかりをとどめおきて枯野のすすき形見とぞ見る 793

頼めおかむ君も心やなぐさむと帰らむことはいつとなくとも 886

年たけてまた越ゆべしと思ひきや命成けりさやの中山 987, 甲状腺外科草子 141 既出

逢ふまでの命もがなと思ひしはくやしかりけるわが心かな 1155

面影の忘らるまじき別れかななごりを人の月にとどめて 1185

有明は思ひであれや横雲のただよはれつるしのめの空 1193

世の中を思へばなべて散る花のわが身をさてもいづちかもせむ 1471

ふけにけるわが身の影を思ふまにはるかに月のかたぶきにける 1536

百人一首の「嘆けとて月やはものを思はするかち顔なるわが涙かな」は新古今では不採用！

風になびく富士のけぶりの空に消えて行方も知らぬわが思ひかな 1615 富士見西行の絵のモチーフ、甲状腺外科草子 141 既出

古畑のそばの立つ木にある鳩の友呼ぶ声のすごき夕暮れ 1676

願はくは花の下にて春死なむそのきさらぎの望月の頃 (1993)

西行没後、多くの知人が歌を贈った。

願ひおきし花の下にてをはりけり蓮（はちす）の上もたがはざるらん（俊成歌集）

君知るやそのきさらぎいひおきて言葉におへる人の後の世（慈円、拾玉集）

望月の頃はたがはぬ空なれど消えけん雲のゆくへかなしな（藤原定家、拾遺愚草）



京都の西行庵（2024年10月）

西行が庵をむすんだとされる場所は吉野山、善通寺など全国に多数ある。京都の西行庵は高台寺近く、分かりにくく地元の人も知らない人が多いが、閑静で素晴らしい場所である。

参考資料：Wikipedia, など

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2025年8月6日